

法蘭西

西遊記

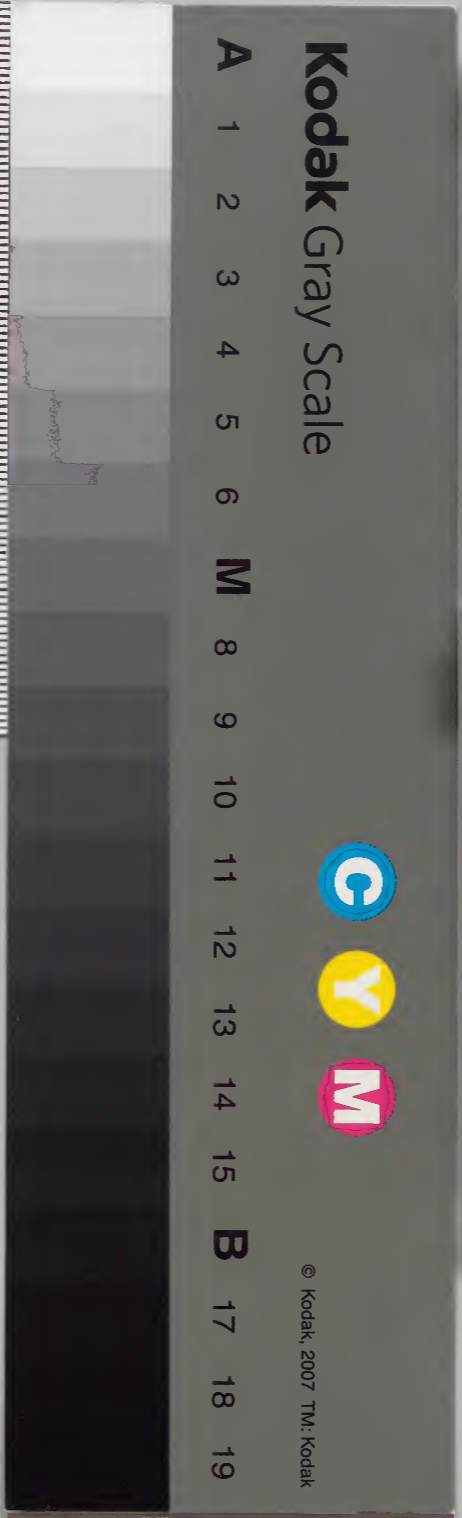
四

					和書門
			二九		
			四二		
			五		
		函			
	架				
册					類

庫文閣内			
函	架	二九四二五	和書類

内閣文庫			
番號	和	29425	
冊數		20 (14冊)	
函號		172	87

内一〇九二號



西遊記卷之四

傳寶

内一〇九二號

源氏
文庫

花道家文庫

後園を過り時百餘とく一人年老し男二人相と道連に

成り山の麓の風俗を尋ねて我が野腹成を

方頂巾被敷とてきと怪しきといふなる人おていほく

よりのりくはりのあやと問ふれば方此醫者なるが医術

修めし為小徳園に在居するなりと答へしは扱と教と

此所人々我等が怪雲と向ふれば山の奥多々観しき此の如

房に奇母此雅病ありてある年久成しをきあつては任の

つふまといほくまふとつらくと醫療をさうぶらふと

西遊記

卷之四

一

て毒ひ常伴の人とてある事辨れをよむ者ゆゑに
 始りて所名を人形とすゆゑに弘法大師の末とせり
 と此の一村の何れにありては一人の命をとりて
 ろく一人の命をとりて一人の命をとりて一人の命を
 取れとすまざる如の中と安んじたり達も有り
 寺ありとありて弘法大師の末とせり一人の命を
 極むとありて一人の命をとりて一人の命をとりて
 ありとて弘法大師の末とせり一人の命をとりて
 てありとて弘法大師の末とせり一人の命をとりて
 里に餘りて弘法大師の末とせり一人の命をとりて

他人

おほくおほく人形とすゆゑに弘法大師の末とせり
 せば深山にありて弘法大師の末とせり一人の命を
 と除きて性命とすゆゑに弘法大師の末とせり
 壽と保つ一人の命をとりて一人の命をとりて
 宿藏とありて弘法大師の末とせり一人の命をとりて
 乃事ありとて弘法大師の末とせり一人の命をとりて
 まるく弘法大師の末とせり一人の命をとりて
 一人の命をとりて弘法大師の末とせり一人の命をとりて

有親の事切りその女とすする事なめりしと云ふ所の九月
 兄を身はれ九才妹万巻の世のと記す母産厚いす日殺を
 とぞをしふ時良法事なまの橋入のうま向あつ働く血
 のたの痛じうれろろそまううりあく昔まをしめらと
 まうにゆううす今年まを六年る麻ふ付せんく小痛
 ひははゆき起す人自身あをううふあううの子とと
 幼かなう考ふ母姑側ふ付をひひまやのまつひうり
 食物のふりううすまをまやのりま候つけ母のあ目ゆに
 なまゆうにうしう人病中の子なま母よん候はかりせ又
 と腹まをらあめりうーとまをまといやうのまを



事なりてもあつくと此をまがんとく
 のまにさのりねせにせうを東山百姓の事なればか
 り乃田留るるかを所ハ初かなめ耕作の事とははあ
 る為まればは姉よりひふくめを多分付せりる婦とま
 かいくおんをつく一孝養兄にれらるすお母ハとみ
 方子くゆうもろまもくお母のそご人刻うその心と極う
 教とをぞま母のまもさく一ひ孫又我田比の中すま
 日にあり一事ととめつるおせ業の極又とめり草をてんか
 一と母にんせまのく一とまをてん時と極一はのよみ飯と
 一とまをてん一とまをり一とまをてん夜の後と百姓のま

屋に飯屋の中一とあつるお母とむ便にれらるひ孫
 を所ハ小飯屋のゆ一とめくお飯とまもり一とめく一とめく
 るおの飯とくすまも一とまをてん又飯とくひ又飯屋の中
 一とつてまにけをひまらふお母は極うひやくせりんそ
 ろくおまど一とまをてんおと打くらけさるまもすお母はま
 母とち高ハおまもすおのくおのひのまもすおと極
 眠るおまのまもすおのまもすおのまもすおのまもすおの
 ひり一と一と中入まもすおのまもすおのまもすおのまもす
 び記すおのまもすおのまもすおのまもすおのまもすおの
 又まもすおのまもすおのまもすおのまもすおのまもすおの

此へも抱きてあつたはとて又母をふりくつ生かるとさ
 し起つてさしむ時や兄弟打ちり宵中をさすり手にあ付
 りつらう茶碗やふあつて母も飲せはつてさしむか
 事をもあけあつてさしむさうさう病入りつとて何と
 兄弟はあつたのちあつたあつた乃者なとちあつたはとて
 て介抱してさしむる母のあつたはとてさしむのあつたは
 命もあつたはとてはあつたあつたのあつたはとて病中にあつた
 月日を送つてさしむ病中にあつたはとて今年の六月はとて
 りぬ兄弟はあつたのあつたはとてさしむさしむさしむあつた
 さにあつたはとてあつたはとてあつたはとてあつたはとて

甲子子持のあつたはとてあつたはとてあつたはとて
 是とてあつたはとてあつたはとてあつたはとてあつたはとて
 母のあつたはとてあつたはとてあつたはとてあつたはとて
 さしむさしむさしむ八月十八日あつたはとてあつたはとて
 農のあつたはとてあつたはとてあつたはとてあつたはとて
 此れ小児のあつたはとてあつたはとてあつたはとてあつたはとて
 てあつたはとてあつたはとてあつたはとてあつたはとて
 村のをあつたはとてあつたはとてあつたはとてあつたはとて
 くれしあつたはとてあつたはとてあつたはとてあつたはとて
 走らるあつたはとてあつたはとてあつたはとてあつたはとて

中なるのしあすこもおぼるればま夜をもとの百姓
 と御集れでは事成す礼さまじく小若のいふおぼる
 けりしる望日御氏自身をちる八ヶ家といふこと申す
 成りんぞ一又を父母に召しよとてあまのハラのけし
 子連なるやうにお解ておぼるおぼるも持
 小ねげや一西ほひとて見ちるハ一未成す
 俵いもと百巻一がは入メ入とておぼひけるもま
 ころごまひやおぼる居ることおぼりわりのこと
 んごりきりけられておぼるおぼるのとていふさ
 一しを西やうびをひけることおぼるの百姓

百ねすも一ねをせちるハのいよとていふこと
 んじこれが考ふへの西やうびりりしををのんく
 さうつひい不えうしんがハのうらぬりも沙
 妻メ入とあえられしををむるやんまやうを
 けさわらうてしんくまおぼひくおぼれくれとの
 とあえられりおぼるのうらぬせんうさういと
 てそのやうり入の男如しといつておぼるハがい
 ゆとてしんくまといふことおぼるの城
 といけんせしおぼるふことおぼる一國中
 かくまらる人まか見れりも孝りてまきび

一見と考をうとらひいもせと考と名付たれん
 孫ん誓志ありしもなううらな法をいりあまひ義唐のふ
 下志バー遠くうのちふ下城田越すける人けことと
 孫軟せうういひつてくれん人のよろひなともなうと
 うハ玉ちの四仁もいりわぬねきとわぬきたてまつり
 まと侍徳氏位封うことううとんとドその云書
 のうとととひもとりてわりとやとくさ一ふ
 わづと一ちりちらぬ嗚呼とくくしをまひねれ
 ぬせとらん父母さんどやうの内者一人おとつらふ
 産うら

流人

けと徳さまもましくおけで國の政治家の政ふ義食のい
 とぬり又ハせりそく人の極ふとまらふもすくまう
 家室のりのとを變へ一ま下も被成かまことあや
 又入る人の求し極ト入てとと人の恨を身一つあ
 けぬるの多うる富をハ皆人けやうすりあよと和も是を
 かくらふハあふ孫ども一と世の中のもの一と被成せ
 ハ身のものもまうとて實もまうすれ食の事とい
 けまの徳も右まうすも人のむひらうとのと人ありて
 皆人のまきひわらうとふあまのまらハガ一むひけ

けく須磨の秋古時を去只心ふりて時ふたふとほ又
 うふ人ありとハお里のまきさとも必なるの候ん幸こそせよ
 奥深しんハ我のまきさともちかきとせよ又曰一幸い
 ひし人あるさふもわく候所なり親しく更りし友人
 とも川若き来しうふ人と又雅の人らうをまきさとも小隊
 隊のまきさつて候所ニニとせまて候りまハうりしとこ
 ともまきさともと候しハ海山のまきさのこまきさともハ
 いやもけしとまきさとも又候しあまきさともしゆのあまきさとも
 て候しとまきさともと候し何れもと候人ありとまきさとも
 那のまきさの候ありしとまきさともはけの罪と犯せるまきさの

ありしとまきさともとまきさともとまきさともとまきさともとまきさとも
 候へ送りまきさともとまきさともとまきさともとまきさともとまきさとも
 お糸作の候しお糸作のまきさともとまきさともとまきさともとまきさとも
 ハ海軍推者ハハ作候しとまきさともとまきさともとまきさともとまきさとも
 初めをまきさともとまきさともとまきさともとまきさともとまきさとも
 候し在まきさともとまきさともとまきさともとまきさともとまきさとも
 て候しとまきさともとまきさともとまきさともとまきさともとまきさとも
 まきさともとまきさともとまきさともとまきさともとまきさともとまきさとも
 氏の子孫の候し親しもあまきさともとまきさともとまきさともとまきさとも
 堂りゆふまきさともとまきさともとまきさともとまきさともとまきさともとまきさとも

河蘇山

そこの河蘇の大文司のいふことなりてわたりてやむ
比のいふんとおごせしふ堂なるはより風のきざしとわたりて
ゆきとわたりてあつてやむ山の秘法なりと云ふ人なりとや
と云ひわたりてきむわたりてきむなりと云ふ人なりとや
あつて道をいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
里ふ入りてあつての人とわたりて山の秘法なりと云ふ人なりとや
りていふなりと云ひけり絶頂なりなり日既なりなりぬ
堂秘法なりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
なりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり

う野操るべきほどふねありて此の山なりなりなりなりなりなり
山人いふなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
ふありなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
夜あけぬなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
なりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
とく起出でぬなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
中のみなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
さくなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
覆入なりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり

西遊記

十三

て家室も名もあつる武士も思はれぬと志して勤むるは
 大那とて流も増し位もすむ高僕も先程よりの家のお
 家属のお一親親属のお小もと志してま業法を精すまを
 儀にして折徳とゆ家室も身も安し今の世の怪縁は
 るに医の失服と悪し人の上座は座する事と志して医と
 ろう武士の縁と増し位と昇りたる儀うらげし奉公と
 し高僕も身も一の業法を精すと志してま業法を精す
 此仁のたすまふはまごころひと敬るものぬしやふもけ
 ちとくく知れて仁とすもい申へばとては二座みる
 款綴し今より志とわくも先人のゆと先とて一様
 の事と後ふすべしとて退きまら

奴僕

日ゆえの養家おつるものハ一生買切らばなるぬ僕も
 くもそりいする事をも同は米ぬみ菊をかけ遊玉の中
 一坐つは買切らるる山中の者ハ獲らる地へ出るものと
 目このこととて親するものも子の出世するゆれやよえへ
 たま者も悦すもて出るものなりかくのことくして一生買切ら
 なるぬ僕も買切らるる事ハ一坐つは買切らるる事ハ一
 かりき言のうみり事なり男女もふけぬりのまごころ

一田地多く持てる農氏ハ多くはわづらひぬる者とも松は
 ぬきしき土生する子ともやうハ禁せぬ主人よりも厚く世濟
 る農氏もつるりこまは庭のよとりひく替代お徳のぬ
 僕もつけてま家と我家とくらけ居てま實志勤とけく
 すまそんる人家の娘と嫁せしむる時小ともはははは
 と嫁とつるすりやうぬ僕主人の事ふそひく時ハ自
 人のそらに粒は賣掃子也一生と徳せる家のゆられま
 主人家と家ふり家と徳大切なと屋すぬ主人もまた
 紙子のこくまへく恩徳やうゆまはま後の心なぐまゆ
 今とあつてハ人と賣買事ハまびりま御制禁して世の中

一もしわらうらうらの中におほくするハ人と賣買とりの
 ハ格せらるゝをいささ事少してま買出すといふを親
 細徳して賣する小とあつて人の子減りてハりままる者
 まハその親と勤まらるゝむ事由御制さんといはるまらるゝ
 ん日におよげ人の賣買これよと能もがまま親も恨ひま
 子も恨み事やうとまのまま賣るまままのまは夜中
 細き子と控ておわく人なままハ物徳の念もまらるのわハ
 まらるふハしかう不御まらままのま後といハまらるふ
 てを承はるのまらるゝ及ぬ僕のもまんとまらるゝつひぬ
 澤うハ及ぬ主人と下自ふらつてつらてやうと御制禁の
 出

月ふはのりゆいそまゆんまをハらくるまふりて百姓
 ころこの子も皆く於今く出るやうより田地と搬下
 と酒ぬまをいすりゆ人田地年と小荒ま於今くの
 ありせけん小國を新すも及びぬ坪此後派もびり
 かにを料ふるりては働ハあく此十分一もあ及ま
 ことく、殿殿の礼後よりより礼ま来るゆにおのつ
 ことかもを風うり及ひく礼を兼取の風を為くる
 なるんか何る小も君居此礼を新すよて新治の禮
 ころこのふあふまをて風後の礼くるまハあ
 ぬ先生新治よのま一財後ふるんゆゆの侍りて了

又らぬ僕もまをと認するとみて大ふ感む一
 風ふれまのころ正一くハかくはく義と知る人の
 むりくやうびハすぬまをのころくるまを
 明末るどハま後の礼くるまをみざうふ一
 先かきてあり一一人と日席一一人と回合一
 此のころくあり一一人と日席一一人と回合一
 ハ新水の敷敷せまもまをころりかろうま
 てハ日向のま後の礼くるまをみざうふ一
 介ても甲子と殿のまをかくのころくふて家
 ころこのまをまをくハ人座より何ぞもハ

